

# 不変と革新

～長寿経営に向けて～

事業をつなぐ

向陽技研（堺市西区、山下雅伸社長、072・275・1300）は、ソファや座いすのリクライニング部分に使われる「ラチェットギア」と呼ばれる角度調整金具をはじめ、家具の部品を手がける。売上高に占める海外の割合は約8割とグローバル展開が著しいが、先々代の社長や先代社長は違う役割を担ってきた。

山下社長の祖父、義一氏が先々代の社長だった。1926年（大15）の設立当初は農機具部品や園芸用スコップを製造していたが、44年に空襲で工場が全焼。



## 向陽技研（堺市西区）

# 我慢の出展で海外販路開く

戦後、戦地から復員し、工場跡地の3分の2を売却して残りの敷地で鉄の加工の下請けに携わった。

先代社長は父の善伸氏だ。事業意欲が旺盛で研究熱心だった。得意先から「こういう商品のギアを作らないか」と声をかけられ、数年かけて応えた。これが60年のサマーベッド用ラチェットギアの開発につながる。事業の成功を機に、下請けから自社で商品開発するメーカーに転換。後に座いす用の金具なども手がけ、家具業界向けに多様な金具を提案する現在の礎を築いた。

山下社長は海外市場の開拓に力を入れてきた。90年代初頭から「欧州にも売りたい」と現地の展示会に出展を続けたが、継続した販路を開拓し切れない。数百万円のサンプル出荷にとどまっていた。しかしイタリアの有力代理店と知り合い、潮目が変わった。05年に海外売上高が1000万円を超えて以降、拡大基調が続いている。

「10年以上、鳴かず飛ばずでも（海外展示会への出展を）継続してきた。今や『KOYOブランド』は中国、東南アジア、欧州でも信頼あるブランドとして認知されている（山下社長）と実感を込める。今後は「ブランド力」さらに高め、次代にバトンタッチするのが役割」（同）と話す。

家で開かれた国際家具産業・木材加工見本市「インターツム」に出展

【企業メモ】1926年に山下義一氏が堺市に前身の山下製作所を設立した。先代社長の善伸氏が築いた礎を引き継いだ山下社長はグローバル展開に注力。2006年の中国工場、13年のドイツ販売拠点を続き、18年にベトナム工場を開設した。